

第1回総社市高梁川新架橋整備方針審議会 市長挨拶 要旨

皆さんこんにちは。高梁川新架橋は長い間の懸案事項でありまして、これまで長い議論がありました。そろそろこの議論に平和な終止符をうたなければなりません。これが今総社市に与えられた大いなる使命と課題です。今回、総社市の皆様方、各団体あるいは学識経験者、地域の代表の方々など、さまざまのお立場の皆さんにお集まりいただき、新架橋の整備方針について、私の方からどうあるべきかを諮問いたしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

私は、今日のこの日を非常に心待ちにしておりました。これは総社市にとって今一番大切な議論です。これから皆様方には、率直にうそ隠し立てなく全てをさらけ出し、本当の議論をしたいと思っております。

今まで私が感じていた本音をいえば、この新しい橋を、架ける架けない、これが今まであまりにも多くの市民を巻き込んで政争の具になりすぎていたというふうに思っております。しかも、それによって必ずしも市民が幸せであったかどうかといいますとそうではなかったとも思っております。ですから、この問題をいつまでもごたごたの発信源にするわけにはいかないのです。

私は平成17年の選挙で落選をいたしました。それ以降今まで、大型プロジェクトは見直し、地域主義、弱者主義、子育て王国、人材育成、いわゆる大きなものよりも足元弱者に光をあてたいと訴えてまいりました。その中でこの橋については、私は、あまり市民の間に事実が事実として伝わっていなかったという部分もあるのではないかなというふうに思っております。

何度も言いますが、長い間の懸案事項をそろそろ片付けなければいけないし、いつまでもいつまでも市民を巻き込むわけにはいきません。したがって、今年の10月を目途に結論を出したいと思っております。そのために、私は昨年10月14日当選し、すぐさま国土交通省に参りまして、来年の10月までにちゃんとした結論を出しますから、一度白紙に戻してやるかやらないかを考え直ささせていただきたいとお願いしました。しかし、行政には、継続性というものがあまして、いったん市議会で可決成立したものを、私の一存で中止するということはできませんから、国土交通省の官房長、国交審議官そういったところに対しまして、本来なら5億円規模で国土交通省に対して、予算陳情・要求するのが普通ですが、橋梁部分はいったん中止して、ユニチカから4車線道路に通じる付帯道の整備、約一億円を要求し、減額要求ということで、この10月までの猶予をいただいております。

そのような経過を経ておりますから、8月までに皆様方の答申を受けて、10月までに私が最終的に決断したいと思っております。

我々事務局がきちっと皆様方に示していくよう心がけていきますけれども、この議論のなかで皆様方をお願いしたいのは、この橋がいくらかかるのか、合併特例債がどういう機能を果たすのか、道路特定財源の臨時交付金の部分、これが今国会でもめていますけれどもどうなるのか、川を西に渡った先がどこにどうつながって、あるいは、もとあった循環路線の経緯などしっかりと議論していただきたい。また、行政の継続性の問題ですが、や

めたら、国への信義やペナルティの問題、県とわが市の問題、これの信頼関係、橋ばかりでなくして大型予算の国と県との関係、これからも友好の関係を保てるのかということもあります。更には、交通量の問題、橋ができることで、どういう交通の緩和が生まれるのか、どういう経済効果が生まれ、費用対効果はどうかといった問題もはっきりとさせていただきたいと考えております。

私は12月や3月市議会で、平成24年度までは財政冬の時代と何度も申し上げました。これからの地方公共団体の将来像というものは予算を伴う大いなる決断も大事ですけれども、発想やアイデアで格差是正をしないといけない。そういった中で我市の中長期的な財政、今年度一般会計予算231億でこれからどう展開していいのか。現在実質公債比率が21.5パーセント、経常収支比率が97.5パーセント、そういった中でこの橋を架けた場合、財政的に持つのかどうか。さまざまな正しいデータを皆様にお示ししていきたい。そして、今までこの橋の設計図が市民に見られたことはないと思いますが、そういったものも出していきたい。

市議会は、かつては12対11、1票差で決まりました。市を二分する本当に悲しい争いになりましたが、これからは誰が敵味方とかではなく、総社市民のためになるのかならないのか、架けるのであれば愛される橋に、やめるのであれば、みんなが納得できる理由でなければならぬ。確かに1票差での議決ではありますが、市議会の議決は、市民の声であります。しかし、私が選挙を戦ってみて、この橋が反対だという意見も多かったことも事実であります。

そういったことをこの場で議論しますけれども、議論した内容は広報紙や議会でも広く公開したい、この議論を市民に知らせることで橋の将来を市民みんなで考えたいのです。ですから、この審議会が発信の場ということになります。

私は総社市を変えるんだ、市民が考えて市民が実行するまじに変えていくんだと言ってまいりましたけれども、市民が考えて市民が実行するその第一歩、最初の問題として、この橋のことをスタート地点にしたいと思っております。この審議会は総社市にとって最も大事な会議になります。これから約半年にわたりどうか皆様方よろしく願いいたします。私も覚悟を決めて皆様方の審議結果を受け止めたい。最後に重ねて皆様方にこの諮問をお願いし挨拶とします。